

シンポジウム「自由化に対応した土地利用型肉牛生産の現状と問題点」

草地を活用した黒毛和種一貫経営

「牛作りが目的で作った草地について」

山 川 健児郎

Japanese Black Cattle Reproduction and Fattening Farming Reared on Grassland
Kenjiro YAMAKAWA

1. 概要

黒毛を飼い始めたのは、昭和56年に公社の導入事業で10頭導入してからです。その前までは酪農でしたが、新たな施設投資にせまられて、家族全員で将来方向を検討しました。その結果現在所有している山林や原野が活用できて安い粗飼料で飼える黒毛和種に取り組むことにしたのが始まりです。

その後平成2年から肥育を始め、平成3年度には素牛出荷を停止し、今は黒毛の繁殖肥育一貫に取り組んでいます。

ます。現在総頭数で115頭を管理しています。

土地は、自宅のそばの常室牧場と少し離れた瀬多来牧場の2ヶ所にあり、合計40.6haあります。

経営は徹底した低コストを目指しています。ですから放牧地や施設・飼養管理などは、牛の生態をよく観察して、それをもとに省力化と経費の削減に努めています。

2. 牧場の配置について

牧場の配置は、図1のとおりです。常室牧場は、主に肥育牛と3ヶ月以上の育成牛、それと冬期間に繁殖牛を

表1. 経営の概要

(1) 家族構成

家族名	続柄	年齢
山川 健児	経営主	36
真奈美	妻	33
真 輔	長男	12
勇 輝	次男	9
奈津紀	長女	3
健児郎	父	64
クニ子	母	62

(2) 土地利用状況 ha

利用区分		面積
草 地 放 牧	採草地	6.2
	放牧地	3.4
	原野	9.0
	山林	22.0
合 計		40.6

(3) 主な施設機械

区 分		規 模・形 式	
施 設	牛 舎	70坪	木造(簡易)
		15坪	木造
		30坪	鉄筋
	農機具庫	30坪	木造
		60坪	鉄骨
	乾草舎	110坪	木造(簡易)
機 械	トラクター	47、73、45 3台	
	主な作業機	ロールベアラ、ヘーベアラ、ブル、ラッピングマシン、モア、テッター、レーキ、バックホー	

(4) 繁殖・肥育の飼養状況

区 分	頭数	
繁 殖 牛	29	
1産肥育向け雌	3	
子牛(0-12)	30	
肥 育 牛	1産肥育	3
	雌	13
	去 勢	36
合 計	115	

管理しています。瀬多来牧場は、常室からおおよそ20km離れており、主に繁殖牛の放牧と採草に使っています。

3. 管理方法について

①種付けは全て種牛で本交を行っています。

山川牧場 (089-56 北海道十勝郡浦幌町字常室町)

YAMAKAWA Farm, Tokumuro, Urahoro-cho, Tokachi-gun, Hokkaido 089-56

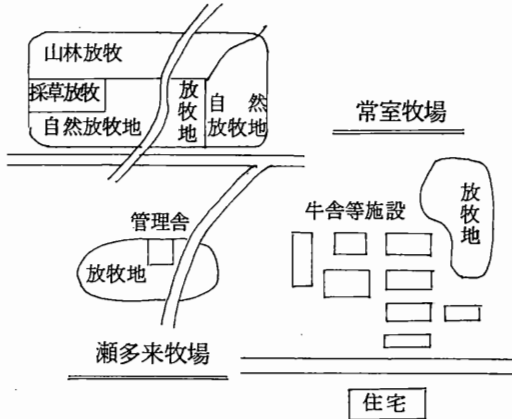


図1 牧場のレイアウト

②まず分産ですが……

子牛の分産は、4～6月に集中しており、瀬多来牧場の山林や放牧地で分産させています。分産時の介助はほとんどしませんが、みんな無事に生まれてきます。この時期に分産した子牛は、きれいな空気がふんだんにあるので環境がとても良く、その後の発育も順調です。

放牧前の4月に分産する牛もいますが、それは常室牧場のパドックで分産させ、30日ほどたったら瀬多来の牧場に母牛とともに放牧します。

③それから、山で制限搾乳を行っています。

分産後、瀬多来牧場の1部に追い込み施設を設けて利用して制限放牧しており、3ヶ月齢を目度に離乳させています。

離乳後は、常室の育成舎の方に移動させますが、母牛はそのまま12月の下旬まで瀬多来牧場の放牧地や山林で管理します。その後雪が降る直前になったら、常室牧場のパドックに移動させ5月中旬頃まで野外で管理します。

④ですから、繁殖雌牛は牛舎がありません。

年間を通じて、すべて野外で管理しており、問題はまったくありません。むしろ牛はとても健康で繁殖成績も良好です。繁殖部門の生産コストは、牛舎が無く粗飼料も山林の笹や木の葉、自然放牧地を利用しているので非常に低くすることができます。

4. 繁殖牛の基本的な考え方について

①放牧地はけっしてきれいな草地ではありません。

放牧はあくまでも牛の体調を整えるためのものと考えています。ですから自然をできるだけ利用しています。放牧できる面積地は全部で34.4haありますが、そのうち改良草地は3.4haで、残りは牛が作った草地

と笹が入った山林を活用しています。

②今のほとんどの牛は、牧草だけを食べていますが、もともとは山の木の葉や笹とか草むらの雑草などを食べていたはずで、ですから、牛にとって最も良い環境は、山などの自然のなかで自由に好きなものを食べて、運動することだと思っています。

私のところでは、この自然を最大限に利用して低コストで牛を生産しています。

③一般に言われているような良い草地作りを目的していません。牛作りが目的なので牛に合った草地を作ることを考えています。

5. 山林と笹の利用について

①笹はミヤコ笹で牛が非常に好んで食べます。

また、牛の体調を整えるのにも適しています。ただし、年間を通じて牛に食べさせると、枯れてしまいますので、期間を決めて利用しています。たぶん8月から利用しても良いと思いますが、大事を取って9月から放牧しています。

②その他、木の葉も好んで食べます。

特に「たも」と「さくら」の葉を好んで食べているようです。

6. 牛が作った草地について

①私の所に牧草の種をまったく蒔かずに行った草地があります。

以前に抜根して土がむき出しになった山林に牛を放牧したところ、後から牧草が生えてきました。これは、糞の中の実が山で発芽したためです。これをヒントに、十分に牧草の実がついた放牧地に放した後に、抜根した山に放牧するようにしたところ、3年程度で十分使える牧草場が出来上がりました。

②牛が作った草地は、牛が好む草が生えています。

これは、牛が自分の好む物を選んで食べていますから、その種が糞の中に混じって発芽したために増えたのだと思います。このように自分の好みに合った草地を、牛が自分達で作った草地が2ヶ所あります。牛を放牧するとまず先に必ず行く場所があります。特に好んで食べる草もあります。

7. 改良草地と山林・自然放牧地のローテーションについて

①改良草地はふたつのタイプに分けて管理しています。

ひとつのタイプは、2～3に1度は、草地をつくるために実がついてから放牧利用しています。それは、牧草の実が落ちて増えるのと、実が着いてからの牧草

は牛の体調を整える働きがあるからです。2番の若い牧草を食べさせると、糞が柔くなるし腹持ちが悪くなります。

もうひとつのタイプは、春の早くから利用しており、10cm程度で放牧しています。

②改良草地と自然放牧地・山林を計画的に廻して利用しています。

まず4月下旬～5月上旬に放牧を開始しますが、この時は改良草地に入れます。その後定期的に山林と行ったり来たりします。8月になってからまだ放牧していない実の着いた放牧地に入れます。笹には9月以降放牧します。

③牛には同じ草ばかり食べさせないようにしています。

良い草ばかり食べさせていると栄養が片寄るためです。

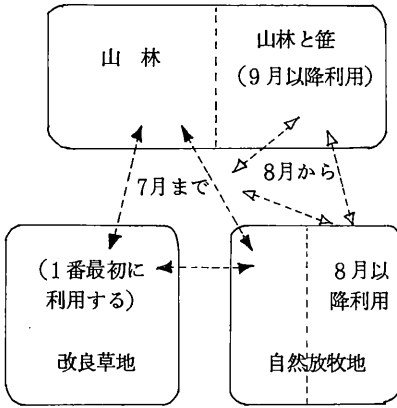


図2. 草地と山林のローテーション

8. 現在の問題点について

繁殖牛の繁殖成績も子牛の発育も順調であり、生産コストもかなり下げることができましたので今のところ問

題はありません。私の今の経営で一番問題なのは、肥育です。いかに肥育部門の収益性を高めるかが一番の課題です。

9. 草地と山林のこれからの管理について

繁殖の成績は良好でコストもかなり低くなっていますので、現状維持で進めていこうと考えています。草地も山林も現在の管理で十分維持できそうです。

このような安定した繁殖部門を基盤として、肥育の成績をどのように高めていくかが、今後の大きな課題となっています。

10. 肥育と放牧について

今は、肥育成績を上げるために、素牛の段階から青草を1本も食わしていません。以前に繁殖牛の肥育をした時に、放牧したことがあったのですが、サシが入らないなど結果が思わしくなかったので、今後とも肥育に関しては、放牧をする考えはありません。

しかし、飼養管理をかなり低コストに変えて、しかも省力化、短期肥育でA3ができるのなら、考えてもいいと思います。案外輸入自由化の対応として省力化で低コストによるA3作りが良い対応策かもしれません。

11. 現在重点的に取りくんでいること

肥育成績を高める対応として、繁殖牛の選抜淘汰に取り組んでいます。方法は同じ牧牛を使って、すべての繁殖牛から子を取り、それを肥育してみるという方法です。すでに10月で、すべての繁殖牛から生まれた子供の成績ができました。連続してA5を出したのもあれば、A4しか出せないものもあります。A5を出した繁殖牛から生まれた雌牛は、全部保有しています。このほかにも育種価やアイミートの活用もしており、近いうちにA4以上が7割強でる牛群に揃えたいと思っています。